

2014年8月31日 主日礼拝  
説教「ヨセフの物語③ 運命を支える神さま」  
創世記 41 章 37-49 節

【自分で好んだのではない場所】

兄たちは、ヨセフを奴隷に売る。17才。ようやく牢屋から出されたのは30才のとき。ヨセフには青春がなかった。青春のかけがえのない日々を、試練の中で過ごしたのです。

私たちもまた、自分が好んで選んだのではない立場や環境におかれます。神さまは、ヨセフの物語を通して、試練の中にある私たちにも、じっくりと語りかけてくださいます。

【すばらしいゆずりの地】

ヨセフについて、たびたび聖書が記す言葉があります。それは「【主】が、ヨセフと共におられたので」という言葉。ヨセフを買ったポティファルの家で、あるいは、監獄の中でも、「【主】が彼とともにおられ、【主】が彼のすることすべてを成功させてくださ」(39:3)った、とあります。私たちは思う。「なるほど。神さまは、共にいてくださる。すべてのことを成功させてくださる。けれども、それはほんとうに、すべてなのか。牢獄から出ること以外、のすべてをしてくださっているかもしれない。でも、結局、牢獄からは出してくださらないではないか。どうしたら、『【主】が私のすることすべてを成功させてくださった』と言うことが出来るのか」と。それは、人には出来ません。

詩篇 16 篇には、「16:6 測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ」(6)とあります。こう言うことができるのは、神さまが語りかけてくださるから。続く7節は、「夜ごとに、神さまが私の心を教える」という訳も可能なところ。昼の間、自分の望んだわけではないかもしれない場所で、一生懸命仕える私たち。そして、疲れたからだを休めようと身を横たえるとき、神さまが私たちに語りかけてくださる。夜ごとに、語ってくださる。ここは「あなたのゆずりの地」つまり、「あなたをここに置いているのは、私なのだよ」と。そして「もちろん、私もいっしょだ」とも。さらに、「ここには、私とあなたでなければ、できないことがある」とおっしゃる。

そのとき、私たちも答えることができる。「そうです。神さま。ここで、私は仕えます。私が望む場所ではないかもしれないけれども、あなたが共にいてくださるから、ここは、良い場所です。すばらしい場所です。あなたが、よしとされるまで、私はここにとどまります」と。

【主は運命を支える方】

詩篇 16 篇 5 節「あなたは、私の受ける分を、堅く保ってくださいます」は、新共同訳聖書では「主はわたしの運命を支える方」と訳されています。神さまは私たちの運命を支える方。運命論という言葉がある。私たちの人生は、あらかじめ決められた運命のもとにある、そうい

う考え方です。ところが、聖書は「主はわたしの運命を支える方」だと言います。神さまが運命を支配しておられるのです。

兄たちがヨセフをねたんで、奴隷に売ったのは、運命ではありません。それは、罪です。兄たちは、未熟なヨセフを、助けてほんとうのリーダーに育てる務めを果たすべきでした。それが、かれらのゆずりの地。でも、そうしなかった。けれども、神さまはお手上げではなく、兄たちが行わなかったヨセフの訓練を、エジプトの人々の手で行わせました。ヨセフの運命を支える方は、すべてのできごとに対応される。スムーズに行くよりももっとすばらしいことを、トラブルの中から、生み出されるのです。

【神の霊の宿っている人】

そして、ついに、ヨセフが牢獄から出る日が訪れました。パロは、ヨセフを「神の霊の宿っているこのような人」と呼ぶ。パロはヨセフを知り、ヨセフの神さまを知ります。自分の運命を支える方を、おぼろげながらも知ったのです。

このヨセフの物語は、もっと大きな神の物語の一部です。やがて、エジプトに移住することによって、イスラエルが神の民として形成されていくのです。

私たちの労苦もまた、神さまの大きな御手の中にあります。いまの場所をよきゆずりの地としてください、ここからさらに大きなみわざを、なしてくださるのです。